

西参道

西参道（西の参道）は、呉橋から宇佐神宮境内に至る道です。かつては神社の表参道として、参拝者や地域住民のニーズに応えるお店やレストラン、旅館が立ち並んでいました。しかし、宇佐神宮境内での昭和の大改修（1932～1941 年）の結果、宇佐神宮へ向かう北のルートの方が表参道となり、西参道は、静かで、小さな神社、記念碑、重要な遺跡を通る並木道に変わりました。

西参道の起点は呉橋が目印になっていますが、この屋根付きの橋の門は通常は閉まっています。この橋は、「臨時奉幣祭」（宇佐神宮に勅使という天皇陛下の使者が訪れる 10 年に 1 度の機会に開かれる儀式）などの特別な機会にのみ、渡れるように開かれます。西から神社へ参拝する訪問者は、近くにある歩行者用の橋を渡って、西参道に到着します。

西参道の南側には弥勒寺というお寺の跡があります。8 世紀から 19 世紀にかけて、宇佐神宮は神仏習合を实践した神社とお寺の複合施設であり、その中で弥勒寺は主要な仏教寺院として宗教的な機能と、管理業務の両方を果たしました。その権力は次第に衰え、1868 年に政府が神仏分離を命じた後、寺院は取り壊され、木々の中に礎石だけが残されました。

西参道沿いのもう一つの注目すべき場所は、海と嵐にまつわる神であるスサノオノミコトを祀る、宇佐神宮の末社、八坂神社です。朱色の社殿には、色鮮やかに塗られた、波の中にある龍の木彫りの飾りがあります。毎年 2 月には八坂神社で、疫病や災害などの不幸を防ぐことを祈願するために「鎮疫祭」というお祭りが行われています。